

令和7年度第4回 川崎市社会教育委員会 青少年科学館専門部会

次 第

日時：令和8年3月17日（火） 午後2時00分～

会場：川崎市青少年科学館 自然学習棟2階 学習室

1 開会

2 館長挨拶

3 議題

令和7年度事業評価について 資料1

4 報告事項

（1）第3回専門部会（視察）実施報告について 資料2

（2）その他

5 閉会

川崎市社会教育委員会 青少年科学館専門部会 委員名簿

任期：令和6年5月1日から令和8年4月30日まで

		氏 名	役職等
1号	教育職員	井上 清一	玉川小学校 校長
		高橋 泉	王禅寺中央中学校 校長
2号	社会教育関係		欠 員
3号	公募市民	南條 邦子	
		間渕 秀和	
4号	学識経験者	佐藤 武宏	県立生命の星・地球博物館 学芸部長 (貝類学・甲殻類学・機能形態学)
		山岡 均	国立天文台天文情報センター 広報室長／准教授 (天文学)
		常喜 豊	昭和女子大学名誉教授 (動物生態学)
		栗芝 正臣	専修大学ネットワーク情報学部 准教授 (デザイン学)
5号	家庭教育関係	眞壁 総子	特定非営利活動法人 ままとんきっず 理事長

川崎市青少年科学館進行管理・評価の概要と目的

川崎市青少年科学館(以下、「科学館」と言う。)は、川崎市青少年科学館運営基本計画(以下、「運営基本計画」と言う。)に基づき、運営基本計画で定めた科学館の理念を達成するために進行管理・評価を行い、課題や成果の共有と、組織的・継続的な改善を進めます。また、評価の公表によって事業の客観性・透明性を確保し、市民・利用者への説明責任を果たします。

※自己評価は2月末時点のものになっています。

科学館の評価体制

科学館では、進行管理・評価の導入にあたり、館職員による自己評価と青少年科学館専門部会(以下、「専門部会」)による評価を併用します。

科学館が自ら目標を設定し、達成状況について分析して、成果と課題を明らかにするとともに、その妥当性を専門部会による客観的な視点から検証し、事業や運営に関しての具体的な改善方策などの助言を受けます。

※これまでの「青少年科学館協議会」は、川崎市の全庁的な附属機関の見直しに伴い、平成28年度から「川崎市社会教育委員会」の「専門部会」に位置づけられました。

評価区分

以下の通り、達成度区分・評価区分を設けます。

<達成度区分> (自己評価)

区分	内容
5	<u>目標を大きく上回って達成</u> ・目標に明記した内容よりも相当高い水準であった。 ・目標に明記した数値を大きく上回った。
4	<u>目標を上回って達成</u> ・目標に明記した期日通り達成し、明記した内容よりも高い水準であった。 ・目標に明記した数値を上回った。
3	<u>目標をほぼ達成</u> ・目標に明記した期日、内容どおりに達成した。 ・目標に明記した数値とほぼ同じであった。 ・おおむね適正に処理し、業務遂行に支障がなかった。
2	<u>目標を下回った</u> ・目標に明記した内容・期日のいずれかが達成されなかった。 ・目標に明記した数値を下回った。
1	<u>目標を大きく下回った</u> ・目標に明記した内容・期日のいずれも達成されなかった。 ・目標に明記した数値を大きく下回った。

<評価区分> (専門部会評価)

区分	内容
A	<u>目標に向かって順調に課題解決が図られているもの</u> ●目標の実現を阻害するような新たな課題や残された課題等はなく、目標に向かって順調に進捗している場合
B	<u>目標に向かって一定の成果が上がっているもの</u> ●新たな課題や残された課題等があるが、目標の実現に向けて今後も現在の取組を継続していくことで対応できる場合
C	<u>課題解決が不十分で取組の改善が必要なもの</u> ●新たな課題や残された課題等があり、目標の実現に向けて、計画の見直しや取り組みの改善が必要な場合
D	<u>課題解決が図れていないため、抜本的な見直しが必要なもの</u> ●前提としていた諸条件が大きく変化し、取り組み内容の抜本的な見直しを行わなければ目標の実現が困難な場合

川崎市青少年科学館 令和7年度事業評価一覧

(川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会)

項 目		達成度 自己評価	専門部会 総合評価
収集保存事業	自然資料の収集と保存・管理	3	B
	天文資料の収集と保存・管理	3	B
	科学教育についての資料の保存・管理	3	B
展示事業	自然展示	3	B
	天文展示	3	A
	科学展示	3	B
調査研究事業	自然分野に関する調査研究	3	B
	天文分野に関する調査研究	3	B
	科学教育に関する調査研究	3	B
教育普及事業	自然	3	A
	天文	3	A
	科学	3	A
	出版事業	3	B
ネットワーク事業	展示・企画ネットワーク	3	B
	調査研究・収集保存ネットワーク	3	B
	学習支援ネットワーク	3	B
	地域振興・生田緑地内ネットワーク	3	A
管理運営	管理業務	3	B
	科学館の魅力を高めるサービス展開	3	A

1 収集保存事業

標本やデータ等の所蔵資料を分類・整理して適切な保存管理を行い、川崎市域の貴重な自然史資料・天文資料を次世代へ確実に継承します。
データベース化した所蔵資料の公開や、資料を使った講座の開催等により、所蔵資料の効果的な活用に努めます。

(1) 自然

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○川崎の自然についての資料収集と保存・管理	①収蔵資料の収集・分類・整理（台帳化） ②GBIF等国内外機関への資料情報の提供	①資料収集として剥製及び標本化を行い、哺乳類7点、鳥類10点、昆虫101点（すべて職員が採集）、植物662点、計780点を新規に作製した。また、電子台帳への登録について、昆虫標本は既存資料を3,506点、新規作製資料を133点、植物標本は新規作製資料を735点、計4,374点を登録した。 ②地球規模生物多様性情報機構（GBIF）およびサイエンスミュージアムネット（S-Net）に植物等の標本データ1,100点を提供した。	未整理資料を計画的に整理・登録するとともに、継続的に新たな資料を作成する必要がある。	○剥製、標本の作製数が減少しているものの電子台帳登録が大幅に増加した。今後とも計画的な収集・登録を続けていただきたい。 ○継続的に標本を作成し、電子台帳に登録している事は高く評価できる。今後も引き続き資料登録、公開について努力してほしい。 ○着実に進めている。 ○地道な標本作成作業を高く評価する。 ○標本作製や資料整理と国内外機関への資料情報提供が着実に進められている点は評価できる。 ○継続的に着実に数進められている。 ○貴重な資料であると考えます。収集・保存・管理を今後も計画的に進めていただきたいです。
		達成度：3		評価：B

(2) 天文

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○天文についての観測データの収集と保存・管理 ○プラネタリウムについての資料収集と保存・管理	①プラネタリウム番組のアーカイブ化 ②天文資料の整理保存	①毎月実施しているプラネタリウム一般向け番組の制作時に収集した文献資料、画像等の資料を番組素材、番組スクリプト、等の関連データとともにアーカイブとして保存し、今後の番組制作等に活かせるようにした。 ②天文学史資料の整理保管を継続して行い、富田資料の目録の公開に向けて分類整理を進めている。また、太陽観測記録のデジタルアーカイブの作成に取組み、黒点スケッチ約500点のデジタル化を実施した。	資料の適切な分類整理と公開が今後の課題	○収集した文献資料、画像素材等のデータ保存が進んでいる反面、課題の一つの公開が進んでいないように思われる。一層の推進を期待したい。 ○黒点スケッチのデジタル化を着実に進めている点を高く評価したい。 ○デジタル化した後の公開・活用方法を検討してほしい。 ○デジタルアーカイブ作成は評価できる。 ○アーカイブの今後の活用方法を工程を含めて提示できると良い。 ○デジタルアーカイブ化が着実に進められている。 保存されたデータの有効な活用方法を検討してほしい。 ○重要な記録やデータを将来の利用のために保存することは評価できる。有効な活用の仕方を一層検討されたい。
		達成度：3		評価：B

(3) 科学

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○科学実験についての資料収集と保存・管理	①科学実験についての資料収集と保存・管理	①サイエンス教室、サイエンスワークショップ他、館内科学系イベントの提供された計画書や報告書の管理とともに、市民団体が普及イベントを計画する際の参考資料として共有できるように、令和7年度サイエンスワークショップ実践事例集として冊子データにまとめた。館内展示を踏まえた更新用の画像及び動画データを収集した。	実践事例集のさらなる活用に向け、市民団体への周知を継続する必要がある。	○実践事例集と収集した画像、動画の活用と幅広い公開をお願いしたい。 ○ワークショップをデータベース化し、市民団体が共有できるようにまとめた点は素晴らしい。今後は有効に活用できるように取り組んでほしい。 ○画像・動画がどのように使われたかの情報収集も必要と思われる ○冊子データを市民団体活動に役立ててほしい。 ○事例集冊子データとしてまとめているのは評価できる。いつでもどこからでもアクセスできるように公開共有を検討してもらいたい。 ○冊子データ、動画データを今後有効利用できるよう進めてほしい。 ○サイエンスワークショップ等をデータベース化し、共有できるようにまとめたことは評価できる。今後も有効的に活用でき
		達成度：3		評価：B

2 展示事業

地域の自然に親しみ、知識を深めることができるように、身近なフィールドである生田緑地や川崎の星空と連動した展示を行います。
市民・利用者が最新の情報に触れられるよう、日々移りゆく自然の様子や最近の研究成果などを反映した展示の更新を行います。
市民・利用者の疑問や興味関心にきめ細かに対応した展示解説を行い、自然や天文、科学技術等へのより深い理解と関心につなげます。

(1) 自然

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○川崎の自然を伝える 展示と情報発信	①生田緑地の自然情報の 発信 ②自然史資料による常設 展示の更新 ③5月10日の地質の日を 記念した特別展示の開催 ④企画展の開催	①生田緑地の自然について、リアルタイムな情報発信のため、受付横の「緑地案内ボード（緑地マップ）」を活用し、職員が観察・撮影した生物の写真を2週に1回の頻度で更新した。また、SNSを活用し、自然情報や展示紹介など28回更新した。 ②生田緑地の動植物を季節ごとに展示する「生田緑地の四季だより」の写真をキャプションとともに4回更新し、計32点を展示した。また、自然分野サイエンスワークショップの題材等をピックアップ展示にて実物資料とともに展示し、7回更新した。 ③5月10日の地質の日を記念して、川崎市地域文化財「オシ沼切通し多摩ローム層模式露頭剥はぎ取り標本」の7点のうち昨年度公開した1点を含む連続した5点を、5月11日に特別展示として限定公開し、延べ913人が来場した。 ④生物多様性の保全と外来生物がもたらす問題についての興味・関心、地域の自然や動植物の保全に向けた取組みに理解を深めていただく機会として、生物多様性と私たちの暮らしの関わりや外来生物によって引き起こされる問題に焦点をあて、パネルでの解説や川崎にいる外来生物の標本を展示する企画展を開催し、延べ9,479人が来場した。	展示物の更新にむけて、更新案を検討し、展示物を作製する必要がある。	○こまめな発信をされていたと思う。 ○新しい試みも交えて自然情報の展示や発信が積極的に行われている。 ○生田緑地の自然に関して継続的に情報発信したこと、外来生物に関する企画展を開催したことについて、高く評価したい。 ○特別展示・企画展の実施を高く評価する。 ○生物多様性の保全と外来生物がもたらす問題に関する展示が評価できる。 ○情報発信を積極的に更新されている点は評価できる。実物資料を直接目にすることができるのが科学館の強みでもあるので、今後も実物資料などを有効利用してほしい。 ○昨年に引き続き、記念日限定公開など来場者を増やす工夫がよい。今後も興味・関心のある企画展を実施してほしい。 ○企画展、生田緑地の四季だより等を拝見した。大変興味深く見せていただいた。展示内容が周知されるように取り組みをお願いしたい。
		達成度：3		評価：B

(2) 天文

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	評価：
○川崎方式のプラネタリウム投影 ○基礎的な内容から最新情報まで反映した天文展示	①プラネタリウム一般投影（一般投影番組制作含む） ②子ども向け投影（子ども向け番組制作含む） ③星空ゆうゆう散歩 ④ベビー&キッズアワー ⑤プラネタリウム学習投影 ⑥星空自由空間（一般団体貸切利用） ⑦プラネタリウム字幕付投影 ⑧天文関連展示事業	①毎月テーマを変えた一般向け番組を企画、制作し、投影を実施した。 ②土日、祝日等に子ども向け投影を実施した。系外惑星をテーマとした新番組を制作し、来年度から一般公開予定。 ③ベテラン解説員である元職員が講師を務める「星空ゆうゆう散歩」を8月を除く毎月実施し、多くの来場者を集めた。 ④乳幼児向けの「ベビー&キッズアワー」を月1～2回実施した。 ⑤小中学校等の団体利用を受入れ、各学年や利用する学校の希望に応じた学習投影を実施した。 ⑥一般団体による貸切利用を受入れ、利用者の希望に合わせた投影を実施した。 ⑦バリアフリーの一環として字幕付き投影を2月に初めて一般向けに実施した。 ⑧10月にオーロラ写真パネル展を実施した。出張企画展として本庁舎にて1月から2月にかけてにオーロラ写真パネル展を開催した。また、3月から4月にかけて「野辺山天文台展」を開催する。 達成度：3	プラネタリウムのさらなる活用が課題	評価： ○プラネタリウムを使った様々な企画を立ち上げていらしたと思います。 ○バリアフリーを意識した番組が制作され投影される等、様々な対象者に向けた多様な番組が工夫・企画されて実施されている。 ○多様な利用者向けの上映を実施している点が素晴らしい。今後も積極的に情報発信して行ってほしい。 ○出張企画展や字幕付き投影など新しい試みを高く評価する。 ○さまざまな世代に向けた企画が素晴らしい。またオーロラ写真パネル展示も良かった。 ○多用なプログラムが実施されてることは素晴らしい。 ○幅広いそれぞれに様々な企画を実施していてすばらしい。今後もさらなる多様化に対応するバリアフリー企画を考えてほしい。 ○利用する学校や学年の希望に応じた学習投影プラネタリウムはとても評価でき、継続してほしい。また、毎月テーマを変えた企画、制作は興味深く、オーロラ写真パネル展などの出張企画展は継続してほしい。 評価：A

(3) 科学

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○市民協働の科学工作展示	①市民協働の科学工作展示	①サイエンスワークショップの広報として、5月よりSNSを通じた動画による広報と市民団体から提供を受けた工作物等を毎週の入れ替えを基本にした展示を行った。教育普及イベントにおいて制作した工作物の原理や作り方を紹介する常設展示コーナーの内容1点を更新した。展示手法として多摩区と連携したARコンテンツ（拡張現実）については、今年度は302名398回の利用があった（令和7年4月から12月）。本事業は今年度で終了する予定。来館者が科学工作の紹介を視聴できるデジタルサイネージの動画を2つ編集し、追加更新した。【P18】 達成度：3	今後も科学の楽しさへの興味を喚起していくために動画や実物を用いた広報を続けていく必要がある。	○ARコンテンツの利用が大幅に増加している。要因を解析し今後の活動に活かしていただきたい。 ○多くの人がARを利用したのはよかったと思う。今後も市民協働について意識をし、事業を進めて行ってほしい。 ○工夫して進めている。 ○デジタルサイネージの追加更新を評価する。 ○今後も科学への関心を誘うコンテンツを工夫して追加してもらいたい。 ○来場者が科学の楽しさを知ってもらう展示工夫をつづけてほしい。 ○市民団体や区との協力・連携による活動は評価できます。ARコンテンツ（拡張現実）は継続してほしい。 評価：B

3 調査研究事業

川崎市は、東京都と横浜市に挟まれた南北に細長い地形であり、東京都との間には多摩川が流れています。市の北部では武蔵野の面影を残すような雑木林があり、自然が多く残っている地域と、南部の工場地帯をはじめとして都市化が進んだ地域があります。

このように、自然と都市の要素を包含する川崎市において、自然と人間の共存を考えるうえでの重要な要件を見だし、考察を深めることを目的として、学芸担当職員を中心に自然環境の調査や川崎で見られる天体の調査を行います。

また、科学教育を効果的に推進するために必要な調査研究を行います。

(1) 自然

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○川崎市域の生物調査 ○自然について市民の興味関心を高める調査研究の実施	①市域の生物調査	①市域の生物調査では、自然系市民団体への委託事業として、生田緑地を中心に市域における動植物相解明を進めるための生息種の確認調査を行うとともに、生息状況把握のための実態調査を実施した。 また、計画当初には予定していなかったが、市内でヒナコウモリが保護されたことを受けて、保護記録をとりまとめ「川崎市の市街地におけるヒナコウモリの保護記録について」として紀要第36号で公表した。	今後、調査結果について市民への適正な還元方法を検討する必要がある。	○継続した調査・研究がおこなわれているが、課題となっている調査結果の公開・還元方法の検討・推進を期待したい。 ○調査を継続していくことは重要であり、限られた時間の中で継続的に調査を進めていることは素晴らしいと思う。また、調査の成果を公表できたことも素晴らしいと思う。 ○予定外の対応をいただいたのが良かった。 ○生物相の調査は継続が重要なので、これからも長く実施してもらいたい（ハラビロカマキリ類を含めて）。ヒナコウモリのような予定にないものの報告も重要だと考える。 ○引き続き市域の生物調査をすすめ、成果を適切に共有してもらいたい。 ○実態調査・確認調査を継続実施し、収集したデータを解明し、広く市民へ還元し、生物に興味を持ってもらうきっかけにしてほしい。 ○自然についての調査・研究がおこなわれているが、今後の課題にもあるように調査結果の公開共有の検討を期待している。
		達成度：3		評価：B

(2) 天文

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○天文現象についての調査研究の継続	①川崎市域の星の見え方調査 ②天体の観測	①夏季と冬季にデジカメを使った市民参加による市内での星の見え方調査を行った。夏はより多くの市民が関心を持ち、参加できるように、ひとつの星座で1～5等星が確認できるはくちょう座の肉眼での観察を実施し、95件のデータが集まり、市内での星の見え方が一目で把握できるよう、地図情報システムの活用によって詳細な解析と結果の公表を行った。 ②太陽表面の観測を継続して行い、観測データの解析を行った。環が消失した土星等の観測を行った。	星の見え方調査についてはより多くの市民が参画できる調査手法と告知が課題	○調査・観測結果はパネル展示等館内でも見られるようにしてはどうか。 ○市民参加型の調査の結果について、わかりやすいかたちで報告できたならなおよかったと思う。 ○星の見え方調査は経年変化等を発信してほしい。 ○昨年も書いたが、春と秋の星の見え方調査は実施しないのか。1等星が少なく面白くないですが、一般の方々の春・秋への関心が深まると思う。 ○引き続き多くの市民が楽しく参加できる施策に取り組んでもらいたい。 ○星の見え方調査では、結果を公表することで、データ収集件数が増加しているので、続けてほしい。 ○市民が参加できる調査は関心が広がっていくと考える。さらなる参加が見込めるように今後も工夫を重ねてほしい。
		達成度：3		評価：B

(3) 科学

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○科学について市民の興味関心を高める調査研究の実施	①ワクワクドキドキ玉手箱の開発 ②GIGA端末用教材の改良及び開発	①ワクワクドキドキ玉手箱の新たなテーマとして、タネの発芽やニボシの体のつくりなどを観察を通して学べるキット「生きものを探ろう」を開発・整備した。 ②科学館の学習支援として実施している地層解説及び地層貸出キットを元にした、かわさきGIGAスクール構想で活用されている端末に対応した小学校向けデジタル教材に対する意見を収集し改良を行った。また、中学校向けデジタル教材の開発に向け、館内で意見交換を行い、資料収集を行った。	今後も学校現場の要望を聞き取りながら、デジタル教材を改良・開発していく必要がある。	○一般市民の興味・関心にも応える調査研究活動と成果の公開を期待したい。 ○学校教育を補完できるようなデジタル教材の開発をさらに続けてほしい。ワクワクドキドキ玉手箱の新たなコンテンツを開発できたのはとても良いことだったと思う。 ○デジタル教材の実現を期待する。 ○ワクワクドキドキ玉手箱の新しいテーマは興味が持てる。 ○どのような改良を行ったのかわかると良い。引き続きデジタル教材においても適宜改良を加えてもらいたい。 ○GIGA対応の小学校向け教材の改良や中学校向け教材の開発など継続してほしい。 ○非常に重要な取り組みであると考えている。GIGA端末に対応した小学校向けデジタル教材を実際に授業で使用し、学習支援の成果と課題を現場と共有していくことが大切であると考えてる。
		達成度：3		評価：B

* ワクワクドキドキ玉手箱：市民に科学の楽しさを伝えるための実験・観察の手引きや道具が詰まったツール

4 教育普及事業

展示を活用した学習プログラムやフィールドワーク、実験等、体感・体験できる講座を提供し、実体験に基づいた生きた知恵を育てます。

(1) 自然

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○展示解説やワークショップ ○川崎市域での自然体験活動 ○学校支援 ○人材育成	①生田緑地観察会 ②サイエンス教室（自然分野） ③サイエンスワークショップ（自然分野） ④自然サポーター研修会 ⑤自然観察（地層・林） ⑥総合的な学習の時間支援	①生田緑地を会場に、種子植物、シダ植物、野鳥、昆虫、地層などをテーマに、現地で見られた動植物や自然環境について講師が解説することで、参加者の興味関心を持つきっかけとなる観察会を当日受付の形式で計18回開催し、参加者は延べ395人であった。あと3回実施予定。 ②来館者を対象に、動植物や自然環境に対する興味関心を深められるよう、座学と観察会で学ぶ教室や、より深く自然を理解するおしごと体験、博物館の役割を学ぶバックヤードツアー等を計9回実施し、参加者は延べ123人であった。あと1回実施予定。 ③自然分野のサイエンスワークショップは1回 15～20分程度でできる観察や工作等の体験学習を計12回実施し、参加者は延べ762人であった。あと1回実施予定。 ④自然や動植物に関心のある市民を対象に、川崎市域で自然調査や観察会を行う自然サポーター候補を募集し、養成する研修会を開催した。「市域の生物調査」、「生田緑地観察会」等で調査活動、来館者への解説等を行うボランティアを育成するため、自然調査や観察会に関する講義及び受講生が現地での指導方法を学ぶ場を設け、研修を実施し、研修会から10名の修了生を輩出した。 ⑤地層観察では、生田緑地で地層の成り立ちについて学習するプログラムを、計28回、延べ2,898人に対して実施した。あと4回実施予定。また、教員の観察コースの事前下見・相談への対応、教員の事前学習、生田緑地での観察が困難な学校向けに地層の写真や地層サンプルをまとめた学習キットの貸出しを行い、市内学校5校、市外学校1校が利用した。 林の観察では、生田緑地の樹林における季節ごとの動植物の観察を理科の学習の一環として、計2回、延べ164人に対して実施した。 ⑥生田緑地の自然等をテーマに、生活科・総合的な学習の時間として課題解決学習の支援を計4回、延べ176人に対して実施した。	野外活動において、夏季では熱中症対策を踏まえ対応する必要がある。	○さまざまな企画をたちあげて参加者も楽しめる企画だったと思う。 ○多様な活動が着実に実施され多くの方が参加されている。参加者の感想や要望などもまとめられると良いと思う。 ○限られた時間とマンパワーの中で、4,000人もの利用者に対して教育普及活動を実施していることに、頭が下がる。養成したボランティアが調査研究や教育普及に関わる人材となり、事業がうまく結実していくことを期待したい。 ○さまざまな活動を精力的に実施している。 ○観察会やサイエンスワークショップなどで参加者が増えていることが喜ばしい。次年度も充実したイベントの実施を期待する。 ○様々な自然観察会、サイエンス教室、研修会を実施し、多くの参加者を得られたことは高く評価できる。 ○毎年コンスタントに参加者を得て、観察会やワークショップを実施できていることが評価できる。 ○生田緑地は様々な自然を観察できる貴重な場であると考え、地層の成り立ちについて学習するプログラムは大変有効である。生田緑地での観察が困難な学校向けに写真やサンプルの貸出しは継続してほしい。
		達成度：3		評価：A

(2) 天文

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○市民や児童生徒が参加できるプラネタリウム番組制作 ○プラネタリウムを活用した教室・講座の開催 ○プラネタリウムを活用した他分野との融合イベント ○アストロテラスでの天文体験 ○学校支援 ○人材育成	①アストロテラス公開 ②アストロテラス夜間一般公開 ③特別観望会 ④プラネタリウムワークショップ ⑤プラネタリウム発表会 ⑥天文講演会／天文講座 ⑦天文サポーター研修会 ⑧プラネタリウム イベント投影 ⑨かわさき星空ウォッチング ⑩サイエンス教室（天文分野）	①平日昼間にアストロテラスを公開し、モニタ上での太陽観察を実施した。また月2回程度日曜日に「昼間の星を見る会」を開催し、太陽の他、金星や1等星など昼間に見える明るい天体の観察会を1月までに7回実施し660人が参加した。 ②夜間の天体観察会として「アストロテラス夜間一般公開」を当日自由参加で開催し、1月までに7回実施し1,302人が参加。年度内にあと1回実施予定。 ③環が消失した土星の特別観望会を開催し、197人が参加した。 ④小学生を対象に年間を通じた連続講座「プラネタリウムワークショップ」を開催し、プラネタリウムの操作体験や番組制作を通じて天文学への知識を深め、関心を高めた。発表会を参加者の家族等の他、一般来館者に向けて実施した。 ⑤近隣の学校と連携した事業として日本女子大学附属高等学校と連携し、天文クラブ生徒によるプラネタリウムの番組制作、投影発表会を実施した。 ⑥明治大学理工学部から講師を招き、大気現象や南極での観測に関する講演会を開催した。 ⑦「アストロテラス夜間一般公開」等を協働で実施する天文サポーターの資質向上のため定期的に研修を実施し、学習会、天体観測の実習などを行った他、「アストロテラス夜間一般公開」参加者への配布資料の作成を毎月行い、天体観察会を充実させた。 ⑧東京交響楽団とのコラボレーションによるプラネタリウムコンサートと、アラスカなどで撮影された美しく迫力ある映像によるオーロラ上映会を開催し多くの方が来場した。アンケートからはいずれも高い満足度が得られた。 また、仙台市天文台制作の震災特別番組の上映会を3月に実施した。 ⑨学校等の依頼を受けてアストロカーによる出張観望会を2月までに19回実施し、延べ2,058人が参加した。 ⑩日時計の工作や夜間の天体観察、プラネタリウムバックヤードツアーなど天文分野のサイエンス教室を年間で10回開催、延べ141人が参加した。 達成度：3	天体の観察は天候に大きく左右されるため、天候に応じた事業の実施方法が課題	○科学館の目玉であるプラネタリウムを使って様々なアプローチをされていると思う。 ○話題をとらえた観望会や様々なコラボイベントが多数実施されている。 ○着実に事業展開をしていると思う。出前授業のように、こちらから出かけていって科学の面白さを伝えるような工夫が、もしできればよりよいと思う。 ○環のない土星観望やプラネタリウム・コンサートなど、新たな取り組みが評価できる。 ○多岐にわたる観察会や研修会の実施を評価する。プラネタリウムコンサートはもうやらないのか？ ○観察会やプラネタリウム、アストロカーを活用して様々なイベントを行い、多くの参加者が得られたことは高く評価できる。 ○アストロテラスでの観察会の参加者が増加している。このまま定期実施を継続してほしい。 特別観望会、講演会、コラボレーションと様々なイベントを実施していて評価できる。 ○アストロカーによる出張観望会は、星空を見る機会の少ない児童にとっても貴重な体験となっていた。天候に左右されるため、観察できないときの方法も検討されていることで安心しておいでできた。 評価：A

* アストロテラス：市民が集い、スタッフと参加者が同じ星空を共有し、星空の美しさと宇宙の神秘を体験するための、観測機材を備えた天体観望用の施設

* アストロカー：当館が所有する移動天文車の愛称。望遠鏡、ディスプレイモニター等を搭載し、市内学校等で観察会を行う。

(3) 科学

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○市民の多様な学習ニーズに応える実験教室の開催 ○21世紀子どもサイエンス事業の推進 ○学校支援	①出前科学実験教室 ②サイエンス教室（科学分野） ③サイエンスワークショップ（科学分野） 科学実験ショー（サイエンスショー） ④第20回かわさきサイエンスチャレンジ ⑤科学サポーター研修会 ⑥子ども創意くふう教室 ⑦出前教室 ⑧学校支援 ゆうゆう広場科学実験教室 ⑨学校支援 かわさきGIGAスクール構想	①実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」を活用した出前科学実験教室を科学市民団体との協働にて実施した。36回実施し、計1,328人が利用した。 ②③小学生から大人まで、様々な年代を対象とした科学分野のサイエンス教室を26回開催し407人が参加した。残り4回開催予定。科学分野のサイエンスワークショップを47回開催し3,429人が参加した。残り4回開催予定。多くの科学講座を市民団体との協働で運営した。 ④「かわさきサイエンスチャレンジ」では、8月2日の1日開催で計961名の小学生と保護者が科学館出展のワークショップに参加した。 ⑤「科学サポーター研修会」は、館内イベントを活用した実践的な研修会を計画し、開催した。令和7年度は研修会から11名の修了生を輩出した。 ⑥「子ども創意くふう教室」では、小中学生を対象とした講座として11月から1月にかけて5回開催し、延べ40人が参加した。 ⑦出前教室では、10月14日、かわさきホリスタの日に川中島中学校区地域教育会議の依頼により出張プラネタリウムを開催し、39名が参加した。 ⑧川崎市適応指導教室との連携による科学実験教室を年間24回開催し220人が参加した。 ⑨かわさきGIGAスクール構想での学校支援として、授業活用や科学館利用をねらい、地層観察会の事前事後や地層貸出キット利用時に活用できる教員向けのサイトをGIGA端末上で提供した。	市民協働の教育普及事業を継続できるよう、サポーターの育成に取り組み、より多くの世代の参加を促す必要がある。	○科学教室等の各種教室やワークショップが継続的に実施され市民団体との協働も定着している。 ○さまざまなチャンネルで事業を展開している。今後も同様に積極的に出前講座などに取り組んでほしい。 ○毎年コンスタントに多数の参加者を得ている。 ○多岐にわたるワークショップやイベントを継続的に実施している点は高く評価できる。 ○科学実験教室やサイエンスワークショップを定期的の実施し、たくさんの参加者を得られたことは高く評価できる。引き続き科学館のリソースを利活用できるように施策を進めてもらいたい。 ○実験教室やサイエンスチャレンジでは参加者が増加している。より多くの世代が参加したいと関心を持つテーマで定期的に継続して実施してほしい。 ○様々な内容で教育普及活動を実施していることがわかった。GIGAを活用した学校支援、適応指導教室との連携、科学館へ来館できない子どもにも科学に触れる機会を与えることのできる取り組みは今後も継続して行ってほしい。
		達成度：3		評価：A

(4) 出版事業

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
	①青少年科学館「紀要」等出版物の刊行 ②地層ガイドブック改訂版の発行	①川崎市青少年科学館紀要第36号への投稿についてHP等で周知し、投稿原稿を著者と連絡調整しながら内容確認と編集を行い、科学館ホームページで3月末に公開する。 ②地層観察ガイドブック改定版を作成し、科学館ホームページで3月末に公開する。	デジタルデータのみの公表のため、発行の際、市民の活用につながるよう周知する必要がある。	○紀要、ガイドブックが計画的に発行できている。課題の活用につながる周知を推進していただきたい。 ○紀要について、継続的に出版を続けてほしい。 ○電子出版ならではの工夫をしてほしい。 ○科学館紀要のさらなる充実に期待する。ただ、各論文や報告の英文表記に不統一が見られるので、校正等は厳密に実施してもらいたい。 ○どれくらいアクセスがあるのかを確認しながら、研究成果が市民に活用されるように効果的な情報共有・情報提供を検討してもらいたい。
		達成度：3		評価：B

5 ネットワーク事業

生田緑地内の文化施設をはじめとする多様な団体や関係機関との連携により、市民・利用者にとって魅力的な活動を幅広く展開します。
多様な団体や関係機関が、それぞれの専門性や地域性を生かして連携することで、相互補完や相乗効果による総合力を高めることをめざします。

(1) 展示・企画

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○展示・企画	①FIELD MUSEUM展 ②その他	①専修大学ネットワーク情報学部コンテンツデザインプログラムを専攻する学生と協働し、「FIELD MUSEUM展：親子で楽しく学べるカガクおもちゃのデザイン展」を開催した。学生主体による11のワークショップを屋内外で展開し、当日は約500名の来館者が参加した。 ②その他 川崎駅前にて開催された「みんなの川崎祭（みんなかわ）」に「顕微鏡で見てみよう」をテーマに出展した。また、こども未来局との連携により、カルッツかわさきで開催された「青少年フェスティバル」にて出張プラネタリウムを実施した。	連携する中で、SNSを活用し、さらに利用者増となる広報等の周知につながる取組が必要である。	○みんなの川崎祭への出展等新たな取り組みへも挑戦されている。 ○大学との連携については、引き続き実施して欲しい。 ○年にもよるだろうが、新たな連携を模索してほしい。 ○学生とのコラボレーション企画は今後も実施してもらいたい。 ○多くの参加者があったことは評価できる。引き続き広報等の周知を進めてもらいたい。 ○外部との連携での企画展で来場者が増加している。さらに来館のきっかけとなるような連携を続けてほしい。
		達成度：3		評価：B

(2) 調査研究・収集保存

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○収集保存・調査研究	①川崎市域の生物調査	①「特定非営利活動法人かわさき自然調査団」と協働で行ったこれまでの調査の結果をまとめ、「多摩川中流域宿河原周辺の鳥類調査」を紀要第36号で公表した。	他の博物館等と連携し、それぞれが持つ専門性を活かした事業の推進が必要である。	○市民団体との協働は定着しているが連携先の拡がり期待される。 ○今後も各機関と連携し、事業を進めてほしい。 ○外部の団体と連携した調査の結果を公表することには大きな意味がある。 ○引き続き調査事業を進めてもらいたい。
		達成度：3		評価：B

(3) 学習支援

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○学習支援	①職場体験・職業インタビューの実施 ②中学校連合文化祭開催への協力 ③教員・職員等研修の受入れ ・教員研修 ・教員社会体験研修 ・博物館実習	①職場体験・職業インタビューでは、市内中学校及び高等学校14校64名を受け入れた。参加した生徒による常設展示のポップ作りやプラネタリウム投影に向けた館内アナウンスなど、来館者へ発信する体験学習に取り組んだ。 ②川崎市中学校連合文化祭理科部門では、今年度の北部会場として協力した。プラネタリウム鑑賞、研究発表・表彰式への協力を行い、当日は104名の生徒・教員が参加した。 ③川崎市総合教育センターとの共催で理科初任者指導力向上研修会（16名参加）臨地研修会（57名参加）や横浜国立大学との現職教員CST養成講座（16名）を実施した。 また、2週間の博物館実習を実施し、8名の大学生を受け入れた。	職場体験での生徒の活動について、より仕事体験としての面を強めていく必要がある。	○計画された活動が継続的に実施されている。 ○今後もインターンシップ等の事業を通じ、多くの生徒児童の科学に対する興味の涵養に貢献してほしい。 ○着実な活動が見られた。 ○当館が職場体験や実習の受け入れ先として重要な役割を果たしていることがわかる。 ○地域の学校を中心に多くの学習支援、養成講座、博物館実習が実施できたことは評価できる。 ○職場体験や実習としての受け入れ先として定着している。体験や実習として参加した方が、当館の魅力を伝えてもらえるような工夫をしてほしい。 ○職場体験、教員研修など教育現場との連携は感謝している。今後も支援協力をお願いしたい。
		達成度：3		評価：B

(4) 地域振興・生田緑地内

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○地域振興 ○生田緑地内	①図書館、区役所等との共催事業の実施 ②地域の大学、団体等との共催事業の実施 ③日本民家園との「七夕」「お月見」事業の共催等、生田緑地内施設との共催事業の実施 ④生田緑地内施設及び指定管理者との広報活動の推進、各施設の回遊性の向上	①多摩区民祭において市民団体による特別投影を実施した。また、宮前市民館、菅生分館及び多摩市民館と連携した移動式プラネタリウムを使ったイベントを実施した。 ②川崎天文同好会共催の天文講演会を元国立科学博物館研究員を招いて開催し、50人が参加した。また、多摩天文グループと共催の天体写真展を9月に開催した。 ③日本民家園との連携事業として7月に七夕体験を実施し、科学館ではプラネタリウムでの子ども向け七夕投影、短冊の配布、民家園では飾りつけ体験とミニ笹配布を実施した。「お月見」では、両施設学芸職員による民家園でのお月見トークを実施し、夜間のお月見プラネタリウムでは中秋の名月について子どもから大人まで観覧いただける番組を投影した。また、岡本太郎美術館と連携した特別投影を2月に実施した。 ④各館の広報担当者による定期的な広報会議において情報共有を図り、当館及び生田緑地全体の魅力向上及び情報発信を行った。 回遊性向上については、子どもたちの夏休みに合わせ、生田緑地内施設3館、藤子・F・不二雄ミュージアム、多摩区行政サービスコーナーと連携しスタンプラリーを実施した。	緑地内の回遊性や地域の活性化のため、緊密な連携により各々の特徴をより活かした事業の推進が必要である。	○市民館や周辺施設との連携が進んでいる。 ○今後も地域のさまざまな事業主体との連携を密にし、科学館らしい事業の展開をしていってほしい。 ○引き続き生田緑地とその周辺を一体とした活動を進めていってほしい。 ○継続的に多様な交流を行っていることを高く評価する。天文分野に偏っているように思えるので、他の分野も充実してほしい。 ○引き続き地域や緑地内の諸機関との連携をしながら、科学館の魅力を高めて欲しい。 ○地域や緑地内との連携がうまくできている。集客につなげてほしい。 ○今後も引き続き地域や生田緑地内での連携深めながら、科学館の魅力を高めて欲しい。
		達成度：3		評価：A

6 管理運営
運営方針

(1) 管理運営

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○管理運営計画 ○進行管理	①管理業務 ②危機管理 ③進行管理	①今年度は第3期指定管理の3年目に当たる。管理運営・広報業務の円滑な実施のため、市の管理・学芸部門と連携して業務を運営した。また、4月の緑化フェア開催に際しては緑化フェア推進室等と連携し運営を行った。 ②市職員、指定管理者、ショップ及びカフェの関係者が参加し、9月には実際に消火栓を使って水を出す通報・消火訓練、3月には改定した防災マニュアルに沿った訓練を実施予定。また、有資格者による消防設備点検のほか、市職員も館内防災点検表により毎月点検・報告を適切に行った。 ③事業計画、中間報告、事業視察、事業報告等のため年4回専門部会を開催し、当館事業の進行管理を適切に行った。また、その際、これまでの指導・助言等を踏まえた上で、資料等において的確に報告・情報提供を行うことで事業報告等を円滑に行った。	開館から13年 が経ち、施設 の老朽化も目 立ちだしてい る。指定管理 者と連携し て、修繕等 を行っていく必 要がある。	○老朽化に伴う修繕を計画的に進めていただきたい。 ○今後も適切な館運営に努めてほしい。 ○着実な運営をいただいた。 ○今後も館の円滑な運営に努力してもらいたい。 ○危機管理、業務管理等引き続き適切に実施してもらいたい。 ○安心、安全な利用のための運営管理を引き続きお願いする。
		達成度：3		評価：B

(2) 科学館の魅力を高めるサービス展開

第2期運営基本計画	令和7年度主な計画	令和7年度実績・自己評価	今後の課題	専門部会評価
○施設の管理運営	①広報計画 ②魅力を高めるサービス展開 ③多様な利用者への配慮	①利用者に分かりやすいホームページを目指し改修を行った。6月に新たにInstagramのアカウントを開設し、XやFacebook等による情報発信を積極的に行い、Instagramのフォロワーを509人獲得、Xのフォロワー数が262人増加した。また、イベント等について新聞社等への情報提供を積極的に行った。その他毎月の学芸職員のラジオ番組出演のほか、新聞、雑誌、テレビ、ラジオの取材に積極的に協力し、幅広く広報活動を行った。 今年度新たに、津久井道の市が管理している堀1か所に生田緑地の他施設とともに、科学館の横断幕を設置し科学館の存在をアピールした。昨年度から継続して自然観察テラスに宙と緑の科学館の横断幕やタペストリーを配置し、来園者に科学館の存在をアピールした。夏季には「プラネタリウム冷えてます」の幟を掲げ、プラネタリウムの観覧を促した。 ・ホームページアクセス数：521,562件（R6 498,384件） ・Xフォロワー数：6,018人（R6 5,756人） ・Facebookフォロワー数：1,716人（R6 1,674人） ・instagramフォロワー数:509人 ※令和6年度は年度末まで令和7年度は1月末までの数字 ※投稿リーチ数：ミニ情報を随時発信するスタイルのため、コンテンツを投稿した時にそのコンテンツを見てくれた人数を指標として採用。 ②利用者からの御意見等に迅速に対応しつつ、適切な案内及び接遇を行うほか、学芸部門の職員によるレファレンス対応など、館全体の魅力向上を図った。 ③バリアフリー関連設備・用具、表示の保全と研修等による人的支援の充実を図るとともに、英語・中国語・韓国語の館内案内を用意し外国人来館者への利便性向上を図った。プラネタリウムではヒアリングループ受信機の貸出を行った。プラネタリウム字幕付き投影を2月に2回実施した。その他、地層タワー横にある階段の踊り場に安全に配慮し、ミラーシートを設置した。 達成度：3	より効果的な方法を模索し、当館の魅力を積極的に発信していく。	○X、Instagramの更新も細かくされていて興味を持って下さる方が増えたと思う。 ○スマホを活用したサービスの開発を期待したい。 ○フォロワーが増加したことはとても良いことだと思う。SNSによる情報発信は今後も続けていってほしい。 ○Instagramの開設や横断幕等の新設等、工夫を重ねている。 ○Instagramを加えたSNS情報発信の充実、またラジオや他のメディアでの積極的な情報提供を高く評価する。 ○新たにInstagramのアカウントも開設され、情報提供のタッチポイントが増えたことは評価できる。今後も積極的に魅力を発信してもらいたい。 ○まずは科学館を知ってもらうきっかけとして、SNS媒体増えてよかった。 ○紙媒体の配付がなくなっていったが、SNS等で見る回数が増えたと感じている。広報活動を継続して実施していくことによる認知度向上を期待している。 評価：A

令和7年度第3回 青少年科学館専門部会 委員視察報告

日 時	事業名	受入委員名 (対応職員)	委員からの意見、質問・回答	今後に向けて	
				課 題	対 応
12月5日 (金)	プラネタリウム 学習投影（4年生）	栗芝委員 (弘田・田中)	感想：学校の風景を投影できるのは、生活体験と学習が結びつき、学校に帰ってから振り返るのにも役に立ちそう。 最後の宇宙旅行でも川崎に戻ってくるので、宇宙の中での場所を認識することにもつながるだろう。 星の軌跡を投影するなど分かりやすい工夫がされていた。 質問：幼児向けとは違ってBGMが少ないようだが？。 回答：幼児向けには、飽きさせない雰囲気を作るため様々なBGMを用いるが、学習投影では話に集中させるため、BGMは必要な場面のみとしている。	—	引き続き、プラネタリウムの機能を活かした分かりやすい学習投影を行っていく。
12月5日 (金)	プラネタリウム 学習投影（6年生）	南條委員 (弘田・田中)	感想：星座への知識がしっかりと入っている子たちだったやはり教科書などの紙の上だけで学ぶより、プラネタリウムを使って学ぶ方が圧倒的に理解しやすと感じた。 みんな集中して聞くことができてよかった。 暗い中で反応するのに、「拍手をしてもらおう」というのはよかった。	—	今後も、子どもたちとのやり取りを大切にしながら投影を進めていくことが大切。
12月7日 (土)	生田緑地観察会：植物	佐藤委員・間瀬委員 (清水・齋藤)	感想：リピーターも多いように感じた。 見る場所が点となり、人数が多いため、講師が植物の名前などを何度も聞かれて答えていて大変そうだった。 参加者の方は積極的な方が多く、詳しい方も多かった。 見る木について、初めの方は名前がついていないため分かりづらかった。 後半（岡本近づいた方）は、名前の表示があり分かりやすかった。 30名は（一人の解説では）数が多い。列も長くなってしまった。 →数が多い場合は、複数の講師が解説をするなどで対応している。 助言：ホワイトボードなどに植物の名前を書いて見せたりするとよい。事前に準備していたタネなどの袋にも名前を書いておくといふ 質問：見せるものは事前に確認しているのか？昆虫など動くものは？ 回答：事前に調査団の人が確認して何を見せるか決めている。動くものについては、事前に確認はして、あとは当日講師が見つけたもの、参加者が見つけたものを紹介している。	同じことを何度も解説しななければならないといけない。	ホワイトボードなど取り入れることを検討する。
12月17日 (火)	プラネタリウム ベビー&キッズアワー	山岡委員 (弘田)	感想：「これから星見るね」と楽しみにしながら生田緑地の坂を昇る親子連れが多くて印象的だった。 開始前からのBGMでリラックスした雰囲気を作っていたのが良かった。 今回は好天で良かったが、雨の日はベビーカー置き場など工夫が必要かと感じた。 土星を見るときに「虫メガネを作って」と動きを入れたのが工夫だと思った。 オリオンのサンタ帽、こん棒がチキン（？）など、クスリとさせる仕掛けが楽しかった。おおいぬ座こいぬ座もサンタ帽で、冬の大三角を印象的に伝えていた。 途中で歌や音楽が入ると泣いていた子供達が静かになるのも印象的だった。 最後にメガスターの真髄である暗い星空まで見せていて良かった。 解説はとても安定していた。 質問：・近隣には保育園も多いようだが、声掛けなどは行っているのか？ 別途、団体として受け入れ？ 回答：保育園等は学習投影として受入れている。	雨の日のベビーカー置き場。	雨の状況により、館内でも置けるようにするなど、濡れないような対応をする。
12月18日 (水)	プラネタリウム 星空ゆうゆう散歩	眞壁委員 (弘田・渡邊)	感想：平日でも多くのお客様がいらっしゃっていて良い。シニアのお客様だけかと思ったが意外に若い方も多いようだった。 リピーターが多いせいか見学のマナーが良いと感じた。 緩やかな語りでゆったりした時間が過ごせる。リピーターが多いの分かる。 今回は音楽をテーマにしているので、星に興味がない人にも来館のきっかけになりそう。 天文現象や見ごろの天体など、時季に合わせて情報提供することで多くの人に伝わるのではないかな。 シニアの方が多いと待ち時間の行列などは少し大変そう。	開場前の待機列や待ち時間の対応。	状況により開場時刻を早めるなど、待ち時間をなるべく短くする。